

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(1階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2295100164-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、新型コロナウイルス感染予防のため面会や外出が自由にできない状況にありますが、これまでと変わりなく毎日楽しく・幸せに過ごしていただけているよう取り組んでいます。職員の自宅やグループホームの中庭から花々を摘んできて入居者の皆様に楽しんでもらったり、少人数で施設周辺の散歩に出掛けたりと季節の移り変わりを感じていただいています。また令和2年6月よりマッサージの提供を始めました。専門の職員が毎日順番に施術をしています。入居者の皆様からは「私もやって欲しい」とマッサージを楽しみにする声が聞かれています。ご家族も協力的で電話を下さり会話を楽しむなど、入居者の皆様の大きな力になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域との交流」「介護力向上」「環境整備」の三点を中心に励み、コロナ禍にあっても工夫のうえ続けることができています。音楽療法や園芸など複数のボランティア訪問、「みなとつちサロン(焼津市の居場所づくり事業)への参加が断念される中、利用者職員とで「去年の今頃〇〇を植えたね」と思い出しながら植え付けしたり、音楽レクを増やすなどして変わらぬ日々を構築しています。ユマニチュードへの学びは毎月一名の利用者に焦点を絞って勉強会を開催するほか、事務職員が自ら進んで習得したマッサージは平日1時間半提供され、介護職員ではない人の関わりを以て新たな発見にもつながって多面的に成果が実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念:「笑顔あふれる和みの家～共に安心し、思いに寄り添う安らぎの場～」。入居者だけでなく、ご家族も共に安心し、絆を大切にしていけることを目標に日々のケアに取り組んでいる。	理念の「共に～」は「家族も一緒に」という願いも込められており、フロア会議で解決が難しいときは、「家族はどうしたいのか」の視点も取り入れています。また介護抵抗がある利用者の対応に困った時、家族の名前を出しながらだと援助が円滑となったとの事例もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で開催されている居場所づくり(みなとっちサロン)に参加。地域の方と楽しい時間を過ごしている。また、ボランティア(園芸・音楽療法・フォルクローレ演奏など)が定期的に来所し交流している。(現在は新型コロナウイルス感染予防のため中止している。)	ボランティア自ラリポートをかけてくださったり、利用者からも「また来てくれるよね」という声が聞かれたりと、地域との繋がりが年々できていますと事業所では感じています。職員も伝手を活かし、積極的に起案書を起こして外部との関係をつくるようになっていて、頼もしい限りです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の居場所づくり(みなとっちサロン)への参加を通して、地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。地域住民との津波避難訓練については委員の方より「任命書の交付などを検討してはどうか」との意見をいただいております。今後実現に向けて取り組んでいきたい。	常時10名以上が集い、各々の立場で意見発信があり、充実していることを議事録から確認できます。今年度はコロナの影響で第1回から3回は資料配付のみとし、再び第4回は集会開催と、行政や報道が発するレベルを参考にしつつ臨機に調整しています。	条例下の制度のため、書面開催としても行政(市役所または地域包括支援センター)の出席(見た、確認したなどの返信)は担保してほしく、またメンバーからはFAXやはがきなどで意見を得ていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、メールや市内グループホーム連絡会などでも情報や助言を頂いている。焼津市介護相談員派遣事業では、入居者との交流時間を設けた後、実状報告をしている。	運営推進会議には毎回行政の出席があり、防災における地域連携の促進をはじめ情報を届けてもらっています。3ヶ月毎のグループホーム連絡会には、焼津市地域包括ケア推進課職員の同席もあり、事業所だけでは実現できない企画を後押ししてもらえ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会・身体拘束廃止勉強会を開催している。また適宜対象者を決め事例研究を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	母体の特別養護老人ホームと合同で3ヶ月に一度「身体拘束廃止委員会」を開催、また当事業所独自でも毎月の全体会議の中で重ねて「身体拘束廃止委員会」を実施するとの念の入れよう、職員の知見も深まり、利用者の権利と尊厳を担保しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員のストレスチェックを実施。職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。また全体会での高齢者虐待防止関連法についての勉強会を通し、日々のケアについての振り返りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の他、ファイルを作成し職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。また成年後見制度の利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族参加のバスハイク・夏祭り・秋祭りの際には、アンケートや意見・要望の聞き取りを行い運営に反映させている。またご家族への電話連絡や来所時には意見・要望等の確認を行なっている。	理念に基づき、家族会・バスハイク・夏祭り・秋祭りと年4回の行事を定例化させ、延べ60名(前年実績)の家族が参加くださっています。コロナ禍にあっても「私たちも何かしたい」「教えてくれたら一緒にやりたい」との声があがり、家族とは蜜月の関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを通し職員の提案を業務改善に反映させている。また全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、意見や提案を聞いている。令和2年度には静岡県働きやすい介護事業所として認証された。	会議前の職員アンケートは、A4版に利用者や業務のこと、「前回の取組み目標の反省」を記述する項目もあります。すぐに入力した内容には赤字で「OK」と記され、会議を待たずに解決できたものがあることが視え、職員の発言意欲を促進していることが伝わります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務や接遇に対して各職員が年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。リフレッシュ休暇やサンクスカードの取り組みも行なっている。サンクスカードを通し、職員間での協調や感謝の心がこれまで以上に育まれてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在内部研修はDVDやWebにて開催。視聴後、確認テストや感想文の提出を行っている。認知症介護実践者研修など外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、その資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内グループホーム連絡会に参加している。グループホーム連絡会では意見交換の他、施設見学や懇親会なども行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バスハイク・家族会・誕生会など入居者と家族と一緒に過ごせる時間を多く設けている(現在は新型コロナウイルス感染予防のため開催中止)。ケアプラン作成時にはご家族にもケアに参加していただければという提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のほか、馴染みのある場所への外出について家族に提案。必要に応じて協力体制を整えている。新型コロナウイルス感染予防のため現在面会規制をしているが、電話での会話など個々の状況に合わせて対応している。	面会は予約制、時間制限等適宜工夫して玄関でおこなっていましたが、現在は中止しています。電話でのコミュニケーション回数を増やしており、家族の声を聞いて安心する人もいます。毎週必ず電話を入れてくれたり、事務所の外から携帯電話で話す家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。1日の中で活動に合わせて、隊形や座席を変え、多くの仲間と交流が持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。1対1で過ごす時間を大切にし、本人の想いや意向の把握に努めている。一つ一つの行動についてもしっかりと本人に伝え、個々の意思で行動できるように支援している。	センター方式シート(A-1、B、C、Dシート)での情報収集と分析とともに、ユマニチュードの勉強会を毎月開いて粘り強く一人ひとりの利用者との向き合い、職員は視点や気づきを得るとともに利用者ファーストの姿勢を培い、本人本位の視点を具体化させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査の資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェックは各入居者の担当と計画作成担当者・介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの要望の聞き取り。多くの人に関わり、介護計画を作成している。また日々のケアにおいても見直し、改善を行っている。	家族には電話確認を経てサービス担当者会議として来所可能な日を決め、管理者と計画作成担当者が立ち会って18名全員の介護計画書に家族とともに向き合っています。また実践も確かなことは職員のSOAP形式の記録からも確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録の記入。統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。都度、全入居者について振り返りを行い、最善のケアを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど入居者や家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て準備を行う。また受診介助など家族だけでの対応が難しい場合には状況に応じて支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加の他、菊花展や民俗資料館見学・コスモスバスハイクなど季節や芸術を楽しむ機会も設けている。また入居者が作成した広告箱やゴミ袋は多くの人に喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全入居者が協力医を利用している。入居者1人に対し月2回往診あり。協力医との連携により日常的に質問や確認がとれる体制が整っている。	全員が訪問診療をおこなう協力医に変更しています。週4日勤務のある看護師が受診の場に立ち合い、「往診記録(往診時間、往診の結果、最近の様子を記録)」の他に、個人の支援経過にも残し、変化の様子を時系列で把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成。処置方法や薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても看護師から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力病院との連携を図り情報収集を行っている。入院した際には、病院への訪問や電話連絡にて、病状確認を行っている。管理者・看護師・計画作成担当者ともに主治医・相談員との連絡を密に行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス開催時には急変時対応確認書にて家族の意向を確認し、方針を共有している。また入居者の状態に応じて家族への報告をこまめに行い、都度意向を確認している。	「医療体制が整っていない、看護師も常勤ではないことから、看取りはおこなっていない」と家族には契約時に説明しています。また「対応確認書」にて急変時の対応(すぐに救急車を呼ぶ、心肺蘇生希望、夜間の連絡等)について家族意向を確認、半年毎に再確認もおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。令和元年台風による浸水経験後には浸水対策についても見直しをし、対策を強化している。	一昨年の停電から発電機を設置していますが、昨年は台風による浸水がありました。2階への避難は毎月のミニ訓練のおかげを以てスムーズでしたが、18名がワンフロアで就寝となり、普段とは異なる環境下で利用者と職員も難儀な一夜を経験しています。	「浸水などで再びワンフロアで18名が過ごす事態になった場合どうするか」新たな課題が明確になっていますので、シミュレーションプランの作成に取り組むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の視点に立ち、その想いを尊重するという介護者としての基本を常に忘れず、職員間で助言し合いながらケアにあたっている。細かな点でも統一したケアを提供し、安心して過ごして頂いている。	目を見て「今からトイレに行こうと思いますけどいいですか」と介助の内容を伝え、「いいよ」と本人が理解・納得してから「一緒にお手伝いしますね」と行動するということが浸透しており、毎月のユマニチュードの学習がケアサービスの基盤となって育っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で問いかけを行い、選択・決定する機会を多く設けている。座席の移動も希望に応じて実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を聞き取り、希望にそって充実した1日になるよう支援している。個々の日課に合わせ、自ら家事や広告箱・新聞のゴミ袋作りなど作業を始める入居者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は4日間に分けて、ゆったりと行えるようにしている。カットやカラーなど本人の希望に合わせて実施している。入浴時の洋服選びや手持ちの化粧品でのお手入れなど、おしゃれを楽しむ環境も整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節メニュー(時節食材・誕生日祝い)を取り入れている。メニューは入居者の意見を取り入れながら作成している。下膳や食器拭きなど入居者にも参加してもらっている。	隣接事業所からの給食が平日の朝食と、土・日は終日届いており、他は昼夜手作りしています。週一で「季節メニュー」を設定、秋には五目御飯や薩摩芋の甘辛煮、冬にはぶりの照り煮、大根のゆかり和えなど次々と新たな献立が開発され、事業所通信にも掲載しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援している。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。摂取状況に応じて、水分ゼリーや補食の提供など個々に合わせ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また歯ブラシ・くるりなブラシ・ハミングッドなど口腔内の状態に合わせて使い分けている。食事を美味しく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、まずは日中リハビリパンツから布パンツへ変更。様子を見ながら昼夜ともに布パンツに移行している。便座に座り、気持ちよく排泄を済ませてもらえるよう職員2人対応している方もいる。便秘予防として適宜オリゴ糖入り牛乳を提供している。	「排泄状況確認表」で使用パットや尿もれ状況、排泄時間等を記録してパターンを掴んでいます。入居時は家族からの聞き取りを基にパッドを選択し、尿もれない時間を布パンツで過ごすことで、徐々にリズムが整って昼夜を通して布パンツとなった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や沢山の野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活性化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の心の落ち着く時間に声かけを行うことで、抵抗なくスムーズに入浴を楽しんでいた方もいる。また入浴から着替えまで自分ペースでゆっくりと行いたい方には職員の休憩時間を調整するなど、入居者本人の想いを第一に考えた支援をしている。	なかなか入ろうとせず、自分のペースでやりたい人もいます。利用者が昼近くなってから入浴したいとなっても、「昼食に響く」との業務都合が先行せず、「休憩をずらせばいいから」と職員同士が協力し合う姿が見られることに利用者本人のみならず、管理者も安堵しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や灯りの調整など個々に合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行うことを基本としている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や個別レクリエーションなど遣り甲斐や目標を持って取り組んでいる。また新聞の提供やフットマッサージなど個々に合わせた楽しみの提供。コーヒーやふりかけなど嗜好品も希望に応じて楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で協力し合いながら、入居者の希望に応じて外出している。令和元年度のバスハイクでは民俗資料館の見学とともにカフェにてコーヒーやケーキをご家族とともに楽しんだ。個別でのドライブ・お墓参りなども実施している。	中庭や近くの公園への散歩を職員が声を掛け合い、季節ごとに田植えや稲刈りなどの変化を愛でています。また、例年遠くもいとわずバスハイクを実施してきましたが、コロナ禍となり小泉八雲記念館をはじめ「近場も良いところがあるね」との再発見に突っ込んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。どの入居者にも楽しんでもらえるよう食費より出費し、おやつを買いに出掛けることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。遠方に住むご家族から連絡があった際には電話にてお話ができるよう働きかけをしている。メッセージカードや年賀状などその年ごとに形を変え、ご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、家事作業等も無理なく安全に行えるようスペースを確保している。加湿空気清浄機の設置。季節毎に入居者と一緒に壁画を作成し掲示している。また職員が出勤の都度、自宅やグループホームの中庭から花を摘んできて、フロア内に飾っている。	台風で浸水があった令和元年には、システムキッチンを入れ替え、腰壁改修をおこなうとともに、毎月の感染対策委員会で見直しに努めています。週末には洗濯室をはじめとする水回りの清掃を重点的に実施、また加湿空気清浄機をユニット毎に2台ずつ増やしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて居室内に畳コーナーを設置している。また気の合う仲間と一緒に特養サロンに行き、コーヒーや特養職員との会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇の持ち込み。ご家族との思い出の写真や誕生日祝いの色紙など穏やかに過ごせるよう工夫している。また温湿度計を設置し、昼夜ともに居心地よく過ごせるよう配慮している。	持ち込むものに迷う家族には「写真があれば安心するかもしれません」と提案しているからか、各居室には孫の愛らしい笑顔や家族の集合写真が並んでいます。居室前にもスナップ写真6枚が入るポケットアルバムを備え、アルバムを見るために奥まで歩を進める人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者の方が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み、食事を楽しみにしている入居者も多い。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(2階ユニット)		
所在地	焼津市田尻北790		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyogyoCd=2295100164-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、新型コロナウイルス感染予防のため面会や外出が自由にできない状況にありますが、これまでと変わりなく毎日楽しく・幸せに過ごしていただけるように取り組んでいます。職員の自宅やグループホームの中庭から花々を摘んできて入居者の皆様に楽しんでもらったり、少人数で施設周辺の散歩に出掛けたりと季節の移り変わりを感じていただいています。また令和2年6月よりマッサージの提供を始めました。専門の職員が毎日順番に施術をしています。入居者の皆様から「私もやって欲しい」とマッサージを楽しみにする声が聞かれています。ご家族も協力的で電話を下さり会話を楽しむなど、入居者の皆様の大きな力になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域との交流」「介護力向上」「環境整備」の三点を中心に励み、コロナ禍にあっても工夫のうえ続けることができています。音楽療法や園芸など複数のボランティア訪問、「みなとつちサロン(焼津市の居場所づくり事業)への参加が断念される中、利用者職員とで「去年の今頃〇〇を植えたね」と思い出しながら植え付けしたり、音楽レクを増やすなどして変わらぬ日々を構築しています。ユマニチュードへの学びは毎月一名の利用者に焦点を絞って勉強会を開催するほか、事務職員が自ら進んで習得したマッサージは平日1時間半提供され、介護職員ではない人の関わりを以て新たな発見にもつながって多面的に成果が実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念:「笑顔あふれる和みの家～共に安心し、思いに寄り添う安らぎの場～」。入居者だけでなく、ご家族も共に安心し、絆を大切にしていけることを目標に日々のケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で開催される居場所づくり(みなとっちサロン)に参加。地域の方と楽しい時間を過ごしている。また、ボランティア(園芸・音楽療法・フォルクローレ演奏など)が定期的に来所し交流している。(現在は新型コロナウイルス感染予防のため中止している。)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の居場所づくり(みなとっちサロン)への参加を通して、地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。地域住民との津波避難訓練については委員の方より「任命書の交付などを検討してはどうか」との意見をいただいております、今後実現に向けて取り組んでいきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、メールや市内グループホーム連絡会などでも情報や助言を頂いている。焼津市介護相談員派遣事業では、入居者との交流時間を設けた後、実状報告をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会・身体拘束廃止勉強会を開催している。また適宜対象者を決め事例研究を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回職員のストレスチェックを実施。職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。また全体会での高齢者虐待防止関連法についての勉強会を通し、日々のケアについての振り返りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加の他、ファイルを作成し職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。また成年後見制度の利用を検討している家族に対し、助言・支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族参加のバスハイク・夏祭り・秋祭りの際には、アンケートや意見・要望の聞き取りを行い運営に反映させている。またご家族への電話連絡や来所時には意見・要望等の確認を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを通し職員の提案を業務改善に反映させている。また全体会議開催前にはすべての職員にアンケートを取り、意見や提案を聞いている。令和2年度には静岡県働きやすい介護事業所として認証された。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務や接遇に対して各職員が年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。リフレッシュ休暇やサンクスカードの取り組みも行なっている。サンクスカードを通し、職員間での協調や感謝の心がこれまで以上に育まれてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在内部研修はDVDやWebにて開催。視聴後、確認テストや感想文の提出を行っている。認知症介護実践者研修など外部研修にも参加している。また研修費助成規程を設け、職員の学習意欲を助長し、その資質向上とキャリアアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内グループホーム連絡会に参加している。グループホーム連絡会では意見交換の他、施設見学や懇親会なども行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バスハイク・家族会・誕生会など入居者と家族と一緒に過ごせる時間を多く設けている(現在は新型コロナウイルス感染予防のため開催中止)。ケアプラン作成時にはご家族にもケアに参加していただけるよう提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅のほか、馴染みのある場所への外出について家族に提案。必要に応じて協力体制を整えている。新型コロナウイルス感染予防のため現在面会規制をしているが、電話での会話など個々の状況に合わせて対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や助け合いの気持ちを大切にし、必要に応じて職員が間に入るようにしている。1日の中で活動に合わせて、隊形や座席を変え、多くの仲間と交流が持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。1対1で過ごす時間を大切に、本人の思いや意向の把握に努めている。一つ一つの行動についてもしっかりと本人に伝え、個々の意思で行動できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者希望者調査の資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェックは各入居者の担当と計画作成担当者・介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの要望の聞き取り。多くの人が関わり、介護計画を作成している。また日々のケアにおいても見直し、改善を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録の記入。統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。都度、全入居者について振り返りを行い、最善のケアを提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生日・レクリエーション・季節メニューなど入居者や家族のニーズを最大限に取り入れることができるよう実施の2ヶ月前から起案を立て準備を行う。また受診介助など家族だけでの対応が難しい場合には状況に応じて支援して。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加の他、菊花展や民族資料館見学・コスモスバスハイクなど季節や芸術を楽しむ機会も設けている。また入居者が作成した広告箱やゴミ袋は多くの人に喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全入居者が協力医を利用している。入居者1人に対し月2回往診あり。協力医との連携により日常的に質問や確認がとれる体制が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	軟膏一覧の作成。処置方法や薬事情報の差し替え。往診・受診時の結果についても看護師から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力病院との連携を図り情報収集を行っている。入院した際には、病院への訪問や電話連絡にて、病状確認を行っている。管理者・看護師・計画作成担当者ともに主治医・相談員との連絡を密に行い、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	カンファレンス開催時には急変時対応確認書にて家族の意向を確認し、方針を共有している。また入居者の状態に応じて家族への報告をこまめに行い、都度意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施。令和元年度台風による浸水経験後には浸水対策についても見直しをし、対策を強化している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の視点に立ち、その想いを尊重するという介護者としての基本を常に忘れず、職員間で助言し合いながらケアにあたっている。細かな点でも統一したケアを提供し、安心して過して頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で問いかけを行い、選択・決定する機会を多く設けている。座席の移動も希望に応じて実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を聞き取り、希望にそって充実した1日となるよう支援している。個々の日課に合わせ、自ら家事や広告箱・新聞のゴミ袋作りなど作業を始める入居者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は4日間に分けて、ゆったりと行えるようにしている。カットやカラーなど本人の希望に合わせて実施している。入浴時の洋服選びや手持ちの化粧品でのお手入れなど、おしゃれを楽しむ環境も整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節メニュー(時節食材・誕生日祝い)を取り入れている。メニューは入居者の意見を取り入れなら作成している。下膳や食器拭きなど入居者にも参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援している。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。摂取状況に応じて、水分ゼリーや補食の提供など個々に合せ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また歯ブラシ・くるりなブラシ・ハミングッドなど口腔内の状態に合わせて使い分けている。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、まずは日中リハビリパンツから布パンツへ変更。様子を見ながら昼夜ともに布パンツに移行している。便座に座り、気持ちよく排泄を済ませてもらえるよう職員2人対応としている方もいる。便秘予防として適宜オリゴ糖入り牛乳を提供している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や沢山の野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活発化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の心の落ち着く時間に声かけを行うことで、抵抗なくスムーズに入浴を楽しんでいた方もいる。また入浴から着替えまで自分のペースでゆっくりと行いたい方には職員の休憩時間を調整するなど、入居者本人の想いを第一に考えた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や夜間の睡眠状況に応じて、日中の静養時間の調整を行っている。また夜間ぐっすり眠れるよう、様々な活動を提供している。居室環境についても温湿度計の設置や灯りの調整など個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング・服薬一覧表の差し替え実施。与薬時には必ず本人の状態確認(排便状況・生活の様子等)を行うことを基本としている。服薬の変更については特記事項の用紙で情報共有し、その後の経過についても注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や個別レクリエーションなど遣り甲斐や目標を持って取り組んでいる。また新聞の提供やフットマッサージなど個々に合わせた楽しみの提供。コーヒーやふりかけなど嗜好品も希望に応じて楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で協力し合いながら、入居者の希望に応じて外出している。令和元年度のバス・バイクでは民族資料館の見学とともにカフェにてコーヒーやケーキをご家族とともに楽しんだ。個別でのドライブ・お墓参りなども実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。どの入居者にも楽しんでもらえるよう食費より出費し、おやつを買いに出掛けることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。遠方に住むご家族から連絡があった際には電話にてお話ができるよう働きかけをしている。メッセージカードや年賀状などその年ごとに形を変え、ご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備に努め、家事作業等も無理なく安全に行えるようスペースを確保している。加湿空気清浄機の設置。季節毎に入居者と一緒に壁画を作成し掲示している。また職員が出勤の都度、自宅やグループホームの中庭から花を摘んできて、フロア内に飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて居室内に畳コーナーを設置している。また気の合う仲間と一緒に特養サロンに行き、コーヒーや特養職員との会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇の持ち込み。ご家族との思い出の写真や誕生日祝いの色紙など穏やかに過ごせるよう工夫している。また温湿度計を設置し、昼夜ともに居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者の方が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み、食事を楽しみに行っている入居者も多い。		